



# 明化の教育

10月号 (第460号)  
平成30年9月28日  
文京区立明化小学校  
校長 溝畑 直樹



未知なる「自然」・「自分」・「他者」に

— 畏敬の念をもつということ —



副校長 齋藤 道子

この7・8月は、史上初の連日30度を超える猛暑に見舞われました。また、9月には、今世紀最強と言われる最大瞬間風速58.1mの台風21号が、4日から5日にかけて九州や西日本に上陸し、甚大な被害をもたらしました。さらに、6日には、マグニチュード6.7の北海道胆振東部地震が発生し、41人もの方々の尊い命が一瞬にして奪われてしまいました。その後は、全国的に雨の多い日が続きましたが、26日には、大型台風24号の沖縄接近が報じられ、その進路が案じられている状況です。

私達人間にとって最も恐ろしいものの一つにこの自然災害があります。自然災害との戦いは、人類が地上に出現した時から始まり、今なお続いています。この自然災害から身を守るため、私達人間は、これまで蓄積してきた経験や文明の発達によって得た知識や技能を駆使して、様々な工夫と努力を重ねてきました。

その結果、特に近年では、ICTや情報技術の発達によって、自然災害の発生や状況を、ある程度事前に予測することができるようになってきました。このことは、尊い一人一人の命を守るために、とても重要で素晴らしいことだと受け止めます。

とはいえ・・・、例えば、台風の接近を事前に予測できても、その進路や状況の詳細、ましてや想定外の事態までを予測するのは、まだまだ困難です。それ故、私達は今もなお、いつ、どこで、何が起きるか分からない自然災害を常に想定し、いざという時のための心構えと備えをもって生活しなければならないのです。

私達人間は、この自然界に生き、生かされるものとして自然科学・化学・生物学・遺伝学・物理学・地理学・地質学・海洋学・天文学・宇宙学等といった様々なカテゴリーから自然界についての研究を行い、そこに秘められた多くの謎を明らかにしようと努めてきました。しかし、それは、気が遠くなるほど果てしなく深く、人知をはるかに超えた神秘に満ち溢れています。

そうした「未知」のものの存在を感じたり、遭遇したりした時、私達は、自ずと「**畏敬の念**」を抱きます。「恐れる」には、対象を怖がるという意味がありますが、「**畏れる**」には、**慎み深い心持になる、敬虔な気持ちになる、謙虚な気持ちになる、厳粛な気持ちになる、神聖な気持ちになる等の意味**があります。私達は、成長に伴っていろいろなことを知ったり、理解したりできるようになり、いつしか自分を中心としたものの見方や捉え方をしがちになりますが、**私達が知覚し、認知していることは、ほんの僅かな限られたこと**についてなのです。このことは、**自然界に限ったことではなく、自分自身や他の人々もまた、多くの深いものを内包している「未知」なるもの**と言えるでしょう。だからこそ、私達は、それらを理解しようと日々努力するとともに、「**畏敬の念**」をもってその存在を**尊重し、互いに大切に生きていくことが大事**なのではないかと思えます。

本校は、東京都の人権尊重教育推進校の指定を受け、平成29・30年度の2年間に亘って研究に取り組んでいます。**人権尊重教育とは、「自分も大事、他の人も大事」という確かな人権感覚を身に付け、共に尊重し合って豊かな社会を創造する資質・能力を育む教育**です。**12月14日には、研究発表会**を行います。多くの方々のご参会を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。